

## [経営管理研究室]林業労働の現状分析：特に九州大学各地方演習林所在町村について

吉良, 今朝芳  
九州大学農学部附属演習林：教務員

<https://doi.org/10.15017/1456107>

---

出版情報：演習林研究経過報告. 昭和37年度, pp.18-21, 1963. Kyushu University Forests  
バージョン：  
権利関係：

10ℓ～37ℓで  $\hat{y} = 2.4143 + 0.058827x$ , 44ℓ～64ℓでは,  $\hat{y} = 4.2630 + 0.110723x$ , とそれぞれ回帰式が算出され, 共分散分析の結果, 相互に有意差が認められた。

回復時間中に採集された呼気から吸気酸素消費量を算定してみた結果, それぞれ10分間の回復で, 手作業は2.33%, 足・歩行は2.18%, きわめて安定した値を示すことが判明した。

(註) (1) 沼尻幸吉 : 労働の強さと適正作業量 — その測定の方法 — 労研 昭30年 PP. 201～217

(2) 作業中の全呼気量および恢復時間の呼気量の和から, 安静代謝時の呼気量(それに対する時間中の)を減じ, さらに単位時間/分当りの数値に換算したもの。

(3) 1分間当りの実際に呼出された呼気量

### 「林業の労働集団に関する研究」の内容

- (1) スッシュクリーナーの振動と尿中クレアチニン量, ドナジオ反応値との関係
- (2) 省力林業における育林労作業の合理化に関する研究 No. 1
- (3) 林業における取場小集団の生産行動に関する研究
- (4) エネルギー代謝率の簡易測定法の研究

## 林業労働の現状分析

— 特に九州大学各地方演習林所在町村について —

吉良今朝芳

### 1. 目的

近時, 全国的なオ-次産業における労働力不足に直面して, 各

地方演習林においても、林業労働力不足は各種作業に影響をおよぼすこと大であり、現実問題となっている。そこで全国的な動向のなかで各地方演習林における労働力需給の実態を把握し、演習林経営の主要課題である労務対策の一資料を提供することを目的とする。

## 2. 資料および調査

昭和36年度より粕屋、宮崎演習林について業務別月次別賃金者カードを作製。また昭和37年垣内教官によつて調査された農村実態調査資料（椎葉村大河内部落）にもとづき宮崎演習林所在部落家族構成表を作製。その後の人口動態調査を実施。また昭和37年度に同部落の農家実態調査を行った。

## 3. 経過および調査結果

人口動態調査は現在調査実施中であるから、調査終了後詳細に報告する。なおこの調査の目的は年令構成別に流出、入の把握とその理由、そして現在時点での質的な労働力の把握を行ない、余剰労働力の量的把握を主な目的とする。

農家実態調査は各集落（上、下村 2戸、城 3戸、大桑木 2戸、野地 3戸、矢立 4戸、合原 3戸、計 17戸）を階層別に抽出し調査した結果を報告する。しかしここでは、最も主要な労働関係および今後の農業経営ならびに演習林に関する調査の3点について重点的に報告する。

オノに労働関係については（オノ表の昭和36年業種別月次別労働投下量表に示される如く）各種作業とも季節性を有する特に水稻、および育林において、その傾向は大であり、したがって当然のことながら、余剰労働力も季節に左右されることになり、特に表から明らかなるようにこの山村では育林に投下する労働量が3割強であつて演習林経営との関係において注目されるのである。

昭和36年業種別 月次別 労働投下量

種別	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
自営	水稲	11	12	70	184	362	445	155	103	168	271	280	50	2111
	畑作	43	62	80	75	146	101	87	81	72	138	107	50	1042
	育林	56	107	213	218	148	129	261	323	181	126	111	72	1,945
	伐出	10	10	6	34	15	-	-	3	15	26	36	36	191
	畜産	6	6	9	14	10	10	16	18	17	21	18	19	164
	その他自営作業	129	89	55	46	45	47	62	63	52	28	34	102	752
	計	255	286	433	571	726	732	581	591	505	610	586	329	6,205
賃労切	農業	1	2	3	4	3	5	10	5	8	10	5	3	59
	林業	151	140	134	73	40	32	133.5	132	104	60	121	177	1,292.5
	その他	77	71	89	72	73	45	82	96	85	101	77	99	977
	計	229	213	226	149	116	82	225	233	207	171	203	279	2,332.5
合	計	484	499	659	720	842	814	806.5	824	712	781	789	608	8,538.5

オ2に今後の農業経営についてのアンケートの結果、① 労働力について現在および今後自家の経営に対して不足している。8件、不足していない5件、となっており、また② 将来の経営の計画について重点的にしたいものとしては米作のための開田および畑作等は考慮されておらず、薪炭林の用材化(林種転換)、椎茸栽培、和牛の導入等がとり上げられている。

オ3に演習林に関する調査、① 演習林以外のところで切っている14件、その理由として、演習林の仕事が少ない7件、演習林より賃金が高い3件、その他2件、② 演習林の仕事に年間何日位出れるかの質問に対して17件中7件が出られるとし、月次別には次表の通りであり、演習林経営において各種作業との関連

月次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
66率	14.40	12.23	12.77	7.34	4.08	0	14.40	14.95	2.17	6.79	6.79	4.08

性が重要になってくる。また演習林の賃金については全般的に2割程度安いとしている。

詳細については調査完了次第取りまとめ 報告する。

#### 4. 今後の見越し

37年度の調査結果は早急に取りまとめるとともに38年度においても粕屋、宮崎演習林の業務別、月次別賃金着カードの整備と新しく北海道、早良演習林についてもカードを作製整備し、実態調査は粕屋演習林において都市近こうとして注目される地元部落について労働力の需給関係を林学教室の協力のもとに総合的に調査し、39年度においては北海道演習林、早良演習林を以上の見地より調査取りまとめ演習林の労務対策ならびに林業労働問題への系統的、科学的資料を提供し完了としたい。

### 育林過程における生産函数および経営計画に関する研究

坂本 格

#### 1. 目的

育林過程の経営計画が、物量的考量を基礎として設定されるべきか、あるいは経済的考量を基礎として設定されるべきかという問題に対して、いまだ定説的な解答が与えられていない。

本研究は、この問題に解答を与え、林業経営の目的設定を、本質的ならびに現象的視点から明確に把握し、さらに、設定された目的を達成するための、しかも林業における投入と産出の關係にもっとも妥当な、動態的経営計画法を体系的に記述することを目的としている。